

中世末期の貴重な武家庭園

国名勝 旧秀隣寺庭園

岩神館の足利庭園

旧秀隣寺庭園は、朽木岩瀬の興聖寺内にあります。安曇川によって形成された河岸段丘の縁にあり、眼下に流れる安曇川と対岸の集落を見下ろし、その背後の蛇谷ヶ峰を遠くに望むことができます。景色の良い場所にあります。

享祿元年（1528年）に、室町幕府第12代將軍足利義晴は、京都の兵乱を避け、この地の領主である朽木植綱を頼って朽木に身を寄せたといわれています。この時將軍のために、植綱が岩神館を造り、旧秀隣寺庭園を築いたとされています。この庭園は別名、足利庭園とも呼ばれており、室町幕府の管領であった細川高国が、作庭したと伝えられています。

秀隣寺庭園の特徴

慶長16年（1611年）、岩神館と庭園があった地に、朽木宣綱が、正室の菩提を弔うため、秀隣寺を建立しました。秀隣寺は、その後何度も火災等に遭い、今は朽木野尻にあります。江戸時代に秀隣寺の庭園であったことから、現在、旧秀隣寺庭園と呼ばれています。

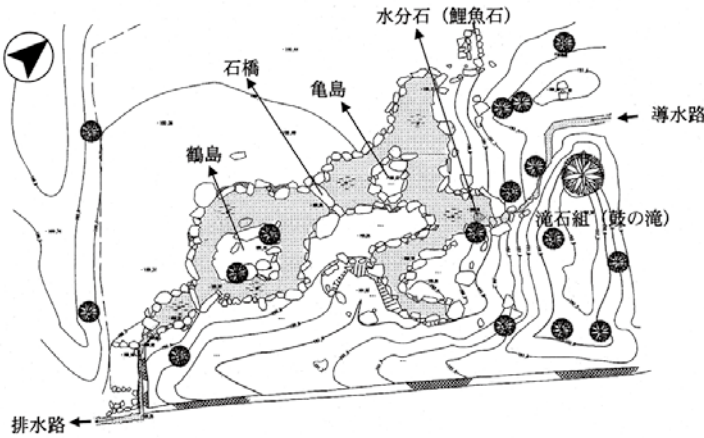
この庭園は、興聖寺本堂南方の一段低い箇所位置し、水は小彦

谷から取り入れています。築山に組まれた滝石組は、「鼓の滝」と呼ばれており、そこから流れでた水はその下にある水分けを流れ落ち、池泉に注ぎます。曲水で造りあげられた池泉の最もくびれた中央付近には、見事な自然石による「石橋」が架かっており、その左右に「亀島」「鶴島」とされる2つの中島が存在します。北側の島は、亀島とされ、力強く首を持ち上げた頭石と尾石が確認できます。南側の島は、鶴島とされ、やや抽象的な造形で蓬萊山と鶴亀を兼ねた珍しい石組であるといわれています。

全国屈指の武家庭園

旧秀隣寺庭園は、大きな流れと曲線に富む護岸や地割などの景観、豪快で力強く洗練された石組を配する意匠等が特徴であり、室町時代の特色が表れている全国屈指の武家の庭園として貴重である

旧秀隣寺庭園平面図



ことから、昭和10年（1935年）に国の名勝に指定され、今でも大切に守られています。

園文化財課 ☎(32) 4467

編集 雑感

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。さて、新しい年がやってきたからには新しいことを始めてみたい、と思っている方はいらっしゃいませんか。私もその一人です。そこで挑戦してみたいのが、今月号で特集している「BIWA-TEKU」。該当地域をウォーキングしたり特定のけん診を受けたりすると「健康ポイント」が貯められ、一年分で賞品抽選に応募できるようです。スマホを持っていない方も、アプリを始めた方と一緒にウォーキングやけん診を受けて、今年一年楽しく健康を続けませんか。(M)

広報たかしま

平成30年

1

月号 No.216

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒160-0001 滋賀県高島市新旭町北畑のの番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp